

第
13回

北九州市手話フェスティバル

北九州市の手話祭典「手話フェスティバル」のご案内です。

私たち聴覚障害者は、毎年12月の「障害者週間」を記念して北九州市手話フェスティバルを開催し、この行事を通じて市民の皆様とのふれあいを大切にまいりました。

今年は、アナウンサーとして幅広く活躍され、現在は千葉市女性センター名誉館長も務められている加賀美幸子氏をお迎えし、『こころを動かす言葉』と題して講演していただきます。

また、アトラクションのサイレント・ムービー『ありときりぎりす』は、聴覚障害の大館信広監督が制作した全編手話の映画(無音・字幕付)には、何かを訴えかけるものがあります。また今年も一足先にクリスマスプレゼントをご用意いたしております。皆様のご来場をお待ちいたしております。



かがみ さちこ
加賀美 幸子 氏

NHK番組キャスター
千葉市女性センター名誉館長

と き 2010年12月5日(日)
◆開場:13:00~ ◆開会:13:30~16:30

と ころ 北九州芸術劇場大ホール(リバーウォーク)
北九州市小倉北区室町1丁目1-11

入 場 料 大 人 2,000円(当日券 2,500円)
小 人 1,500円(当日券 1,800円) 高校生まで
親 子 3,000円(当日券 3,500円)
(大人1名と小学生まで1名)

◆ 記念講演 『こころを動かす言葉』(90分)

◆ アトラクション(40分)
サイレント・ムービー『ありときりぎりす』
大館 信広監督作品(聴覚障害) ●主演: 那須英彰・江副悟史

あらすじ

信濃真吾は一流商社に勤める40代のろう者。
念願のマイホームを購入し、専業主婦の妻・名門私立校に通う娘との3人で暮らす幸せな生活を送っていた。ある朝、出社した真吾は突然会社の倒産を知らされる。家族や家のローンを考えるとショックは大きかった。ふと気づくと真吾は無人駅のホームに立っていた。たどり着いたのは長野の片田舎。そこは懐かしい場所であると同時に忌まわしい過去を思い出させる場所だった。そこで真吾が出会ったのは...



※お帰りの際、全員にもれなく、クリスマスプレゼント!

(注: チケット半券と引換えになります)



◎チケットのお買い求めは、下記の事務局へご連絡ください。

主 催/第13回北九州市手話フェスティバル実行委員会・特定非営利活動法人北九州市聴覚障害者協会
共 催/北九州市
後 援/北九州市教育委員会・(福)北九州市社会福祉協議会他
協 力/北九州手話の会新虹の会・北九州市登録手話通訳派遣センター他
問合先/特定非営利活動法人北九州市聴覚障害者協会事務局 TEL・FAX 093-881-0114

◆ 講師 加賀美 幸子氏のプロフィール ◆

NHK 番組キャスター・千葉市女性センター名誉館長。
1963 年 NHK 入局。女性初の理事待遇となる。「夜 7 時の
テレビニュース」「大河ドラマ」「NHK アーカイブス」
「ラジオ深夜便」「BS 列島縦断短歌・俳句スペシャル」「古典
講読」など、ニュースから古典まで様々な番組を担当。
現在もアナウンサーとして幅広く活躍。

NHK 会長賞、ダイヤモンドレディー賞、前島(密)賞、
徳川夢声市民賞など受賞。

『こころを動かす言葉』『生き方の鍵を見つける』『ことばの
心に耳をすませば』『読み聞かせる戦争』『源氏絵物語～原文
朗読つき』他著書も多い。

日本文藝家協会会員、放送人の会幹事。NPO 日本朗読
文化協会朗読名誉会長 他



“ろう国際映画祭グランプリ受賞作品「迂路（うろ）」監督おおだてのぶひろの最新作”

聴覚依存の既存映画からの脱却 新しい映画ジャンルへの挑戦

ろう者と聴者が対等に手を取り合って製作した、新しい「ろう映画」の第 1 作

● 原案・監督・撮影 大館 信広 (聴覚障害) ●



サイレント・ムービー「ありとまりぎりす」 —全編手話・字幕付—

イソップ童話「アリとキリギリス」。

厳しい冬を越すために夏の間から毎日働き続ける「アリ」と

遊びほうける「キリギリス」の物語。

淡々と日々をこなすサラリーマンの真吾は、ある事件をきっかけに懐かしい場所へと流れつく。

向き合う自身と、ろう者の苦悩。

心の奥底から止まった時間が溢れ出す。

「聾映」とは「ろう者」が作る映画です。

聴覚障害者の監督が製作した全編手話による映画で、
効果音を含め一切の音がありません。ろう者の母語
である手話を視覚に訴える言語として映像で伝えます。
テレビや劇場公開の一般向け映画にはない音響の
ない独特な手法で製作されています。

一般の方は字幕をご覧くださいことに
なります。

聴覚障害者・聴こえない世界の体験
映画としてご鑑賞くだされば幸いです。

監督

大館 信広

